

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立 熊野 小学校
校長 八木 直亮

中学校区におけるめざす子ども像
思考力・判断力・表現力を育むとともに主体的に学び続ける子

令和7年度 重点目標
急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人ひとりの子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。
そのために、教職員は、教育への情熱、確かな指導力、信頼される人間力を備え、「チーム力」を発揮し、家庭・地域・関係機関と連携・協働しながら、総合的な学力・豊かな心・健やかな体を育む学習活動を通して、教育目標の具現化に努める。

確かな学びの現状
【学びに向かう力】
学習を大切なものだと感じ、粘り強く、意欲的に学習を進めることができる児童が多い。しかし、言われたことに素直に取り組むことができる一方で、学びを自分事と捉え、自ら学び、調整して行うことができる児童は少ない。
【知識及び技能】
たしかな学力は着々と積み重ねることができている。特にけつれ学習などの取り組みにより、漢字の書きとりや読みは習熟度が高い。しかし、語彙力の乏しさや、数の量感には課題が見られる。
【思考力・判断力・表現力等】
ICTを効果的に活用したり、友だちと積極的に意見交流をしたりしながら、考えを深めることができる児童が多い。しかし、発展的な思考を必要とする問題の正答率が低く、課題が見られる。

豊かな心・健やかな体の現状
・新体力テストをもとに、課題を明確にして子どもたちの体力向上に向けて、授業改善をはかる。
・学びの診断では、「朝食」「前日準備」「家の人との会話」の項目は、比較的良好な結果である。対して、「就寝時間」「ゲームの時間」「読書の時間」は、全般的に課題がみられる。休み時間での外遊びや、大なわ大会の実施など、体を動かす機会を増やしていく必要がある。
・仲間づくりや良いところみつけ、異学年交流などに取り組むことで自尊感情を高める必要がある。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	環境整備	教室環境を工夫・改善したり、児童との丁寧な関わり・指導を大事にする。どの児童でも安心して、学ぶことができる。	●児童の様子、指導の仕方について共有する。さらに各学年で教室環境を整えることで、落ち着いて学ぶことができ、わかりやすい環境づくりに努める。 ●低・中・高に分かれてブロック研修を行ったり、全校全体で取り組み交流を行ったりすることで、日々の実践改善に努める。	アンケート全般で肯定的な回答が80%以上	学校教育アンケート	3学期	○	各ブロックでの定期的な研修を通じて、指導実践や授業づくりについての情報共有と改善を継続的に行ってきた。児童アンケートの「授業が分かりやすい」の項目では、87%「落ち着いて学習できる」では、85%の肯定的な回答があり、授業・環境の改善に取り組んだ結果だと考えられる。	児童が自ら関心を持ち、学んでいる様子がわかる。情報の多い現代で「自ら考える」ことを大事にしている部分が多く見られた。課題に対し、タブレットでの調査や友達との意見交換を行い、自立学習ができていた。
	授業改善	低中高それぞれの成長段階で、「自ら学習を進めることができる子どもの育成」に向けた授業改善・実践を行い、自立した学習者の育成を進めることができる。	●全学年が研究テーマに沿った研究授業を行い、学校全体で成果と課題を共有し、授業力を向上させる。また、全教員が年に1回以上の公開授業を行う。実践を共有する。 ●取り組み実践について、校内通信を発行したり、校内研修を定期的に行ったりすることで、授業力の向上をはかる。 ●全学年で「自立した学習者」に関する意識調査を行い、その結果を集計する。さらに経年比較・分析を行い、数値の向上に努める。	全体会で報告、成果と課題について共有し、改善に繋げる。 各学年1回の研究授業、全教員の公開授業を計画的に行い、実践を共有する。 校内通信の発行、校内研修を計画的に行う。	実践報告	各学期研修全体会	○	年間6回の研究授業や公開授業を、計画立てて行うことができた。研修テーマに関する児童アンケートの項目では、肯定的な回答が88%であった。児童が自立して学習する力を養うため、研究授業・教員研修などを行ってきた成果であると考えられる。	楽しく積極的に授業に取り組む児童が多く、活気が感じられる。子どもが落ち着いて先生の話を聞き、自発的に発言できていた。先生と児童のコミュニケーションも活発。研修等を通じて授業内容の向上に努めていることが良く感じられた。研修の内容等がよく考えられている。
			●全学年で「自立した学習者」に関する意識調査を行い、その結果を集計する。さらに経年比較・分析を行い、数値の向上に努める。	アンケート全般で肯定的な回答が80%以上	学校教育アンケート	3学期	○		
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	あらゆる教育活動の場で、豊かな人間性を育成する。(いじめの未然防止に向けた取り組みの充実)	内容項目・ねらいに沿った「特別の教科 道徳」の適切な指導を計画的・継続的に充実させる。 あらゆる教育活動の場において、子どもの自己肯定感や自尊感情を醸成し、自他の価値を尊重する意欲や態度を育成する。	教科書や、「未来をひらく」を効果的・計画的に活用する 「自分にはよいところがある」で肯定的評価80%以上	実践報告	教科研修委員会 研修全体会	○	道徳の授業や「いいところ見つけ」の活動、異学年交流を行ってきた。児童アンケートでは、「自分にはよいところがある」の項目で84%「自分のことをわかってくれる友だちがいる」では、93%の肯定的な回答があり、お互いのよさを認め合ったり、自分のよさを再認識したりすることができるかと考えられる。	「いいところ見つけ」などを適切に、自己肯定感を高めることは本当に大切である。自己肯定感とは日々の中で変わるものであり、お互いの得意・不得意を認め合うことが大切である。異学年交流などを通じてそれぞれの個性を認め合い、尊重できている。1年生から6年生まで年齢幅がある中で、社会性が養われている。
			学級会・学級活動・なかよし班活動を通じ、自他のよさを認めたり、異学年交流を深めたりすることができるようにする。	学級会、学級活動、なかよし班活動を通して、友だちのよさを認めることができる。	実践報告	人権研修委員会 研修全体会	○		
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	運動やスポーツの楽しさを実感できる取組や授業の展開を行う。 早寝早起きチェックシートの活用、手紙での啓発を通して、基本的な生活習慣を身に着ける。	小学校体育指導の手引きを活用し、運動量を確保した授業づくりを行う。 毎学期すいみんチェックを行うことで、生活習慣の改善を図る。	実践報告	各月健康安全委員会	○	学期初めに1週間睡眠チェックを実施することで、家庭と連携をとりながら生活習慣改善に努めている。大縄大会、なわとび集会を通して、体力向上を目指し取り組んでいる。	朝食など、基本的な部分を把握し改善に取り組んでいる。早寝早起きは現代社会では難しいが、子ども達の生活・家庭でのチェックを実施することは良いことである。大縄大会やなわとび大会は子ども達も楽しんで取り組んでおり、体力向上に
地域協働	信頼される学校	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域とともに歩むチーム学校づくりを進める	学校ホームページ、校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。 地域たんけん等の地域学習に取り組み、地域を愛し、地域を誇れる子どもを育成する。	学校HPを更新し、校報を発行する 「総合」「生活」等の学習で地域の良さを知る活動ができたか。	学校教育アンケート等	3学期	○	保護者アンケートでは、「学校に関する情報を、わかりやすく伝えている」の項目で、99%の肯定的な回答があった。また、「保護者・地域の願いに応えるために意見を聞いている」では87%の肯定的な回答があった。各学年の学習に加え、駅まつり、防災防災フェスタなど、地域と協力し、行事等を行うことができた。	自治会の行事等、学校と地域との関係は良好で密接である。駅まつりや防災フェスタなど、地域の行事に積極的に参加し、地域とともに学校づくりを進めている。ホームページで、教育活動が良くわかる。ホームページは更新頻度が高く、

校長より(年度末)
・先生方が児童により近い指導することで、落ち着いた環境での教育推進がなされた。
・もととICTが児童自らが使用する状況であったが、令和8年1月に児童用タブレットにiPadが配置され、今後はさらなる積極的な使用が期待される。
・なわとび大会やドッジボール大会など全身運動での身体を動かす機会を増やし体力向上が図られた。
・HPの更新などで学校の出来事などを積極的に発信できた。

学校関係者評価者から(年度末)
・先生方の指導・取り組みが、児童の落ち着いた学習や、保護者の理解につながっている。
・児童が自ら関心を持ち、タブレットの活用や友達との意見交換を通して、自発的に学ぶ姿が見られた。参観の時間を、もう少し伸ばしてほしい。
・自己肯定感を高める活動や異学年交流を通して、互いの個性を認め合い、社会性が養われている。
・朝食摂取や睡眠チェック、体力向上のための取り組みがよい。
・地域との連携が強く、ホームページ等の情報発信もわかりやすい。